

令和5年度報告

青少年赤十字新聞 第19号 やまぐち版 令和6年3月発行

JRC加盟園・校 概況

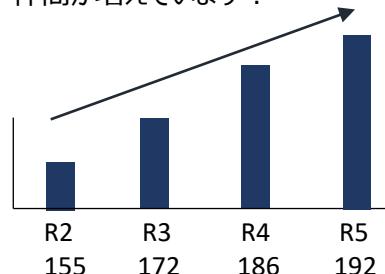
令和5年度 県内加盟192園・校

令和6年3月1日現在

新しく、12園・校が加盟しました！

きらきら星保育園（山口市）、
岩国市立錦清流小学校、周防大島町立島中小学校、
周南市立高水学校、八代小学校、宇部市立小羽山小学校、吉部小学校、
美祢市立豊田前小学校、下関市立垢田小学校、
萩市立椿東小学校、佐々並小学校、防府市立大道中学校（1園11校）

仲間が増えています！



[全国加盟数] 1万4,438校 / 349万4,155人

令和5年3月末現在

○幼稚園・保育所 1,780園・所
○高校 1,753校

○小学校 7,099校
○特別支援学校 210校

○中学校 3,459校
○その他 137校

JRC助成金活用 77園・校、4,156名に1,110,000円助成しました

お泊り保育	1件	遠足	1件
宿泊活動	35件	野外体験	1件
平和学習	1件	保健学習	2件
清掃活動	16件	緑化活動	2件
自然教室	1件	地域学習	2件
防災学習、防災キャンプ	3件		

もっと活用してください！



[内訳] 幼稚園5園、小学校53校、中学校6校、高校13校

他にも、こんな活用ができます！

- ✓ 保健委員（JRC委員）が校内で健康や安全を呼びかけるリーダーになる。→ 絵図や画用紙の購入費など
- ✓ 生徒会（JRCメンバー）が校内や地域の防災リーダーになる。→ グッズの購入、マップの作製費など
- ✓ 国際理解・親善のための活動に、外部講師を依頼する。→ 講師派遣費用など

助成要項はコチラから →



下関市内の加盟高校が集まり研修会（防災食試食）



萩市立佐々並小学校のJRC清掃活動



県央部の加盟高校がオンライン研修会（防災）

1 県支部主催の行事

(1) トレセン (リーダーシップ・トレーニング・センター)

青少年赤十字活動の中核となる児童・生徒のリーダーを養成する目的で、例年夏休みに開催しています。今年度は、4年ぶりに2泊3日の日程で開催しました。※中学校は台風のため中止

小学校 8月2日～4日 2泊3日

場 所： 下関ユースホステル
人 数： 6校・27名
指導者： 11名



初

令和5年度小学校トレセンを映像にしました！



高校 8月6日～8日 2泊3日

場 所： 徳地青少年自然の家
人 数： 8校・17名
指導者： 11名



高校トレセン選抜2名は、3月に山梨県で開催される4泊5日の全国研修会に参加します！



[指導者の感想]

①児童・生徒に関すること

- ・子どもたちはともかく楽しそうだった。楽しさの中に学びがあるから、子どもたちは変わっていくのではないかと思います。
- ・フィールド・ワークで子どもたちが大きく変わった。振り返りの中でも、子どもたち自身が協力することの大切さなどを話していた。
- ・「グループの一人ひとりがリーダーである」ということを子供たちが受けとめ、考えたことで異なる学校同士でも自然とコミュニケーションが生まれたり話し合いをより進めるための発言などが見られた。コミュニケーション能力や自主性等の成長につながったように思う。
- ・率先して行動することが、意識しなくてもできるようになった児童がいました。
- ・2学期の学校での様子をみると、積極的な児童は増えているように思います。
- ・積極性が出てきた子がいます。自分のことはきちんとできるが、人前で何かをすることが少なかった子が、トレセンで自信を付けたのか、率先してなにかの役を引き受けなど積極性が出てきたい子が何人もいます。
- ・掲示板を見て確認することや、全体のために準備や後片付けをススんで行うなど、態度目標が行動に表れていました。
- ・普段の学校生活において内気な児童が違う学校がいるグループの中で、話し合いの中心となる発言をしたり世間話をして話しかけたりしていた。コミュニケーション能力が養われていると感じた。
- ・課題や仲間の良いところを指導者側が伝えるのではなく、子供自身に気づかせるようなしきけがあったのが良かった。掲示板を通じて、改善点やメッセージなどを伝えることで、子供の行動に変化が見られた。

②指導に関すること

- ・全ての活動に意味があり、大変効果的であった。その中でも特にフィールド・ワークで、さらに団結力が強くなった。
- ・参加される指導者の方が、回数を重ねることごとに成長されているなあと感じます。
- ・児童へどこまで指導し、どこを見守るかがとても難しかった。今後の教育活動においても課題であると感じた。

[トレセン指導者に聞いてみました！]

Q. JRCのトレセンが、他の合宿や研修と異なる点を教えてください。

- A.
 - ・参加者が、自身の変化を実感している様子を間近で見られる
 - ・指導者が、「あえて指導しない」という点
 - ・事前の準備や計画がカチッと決まっていないところがある分、その場その場でプログラムの内容やスタッフの配置等が臨機応変に対応できること。また、そのシステムによって指導者が鍛えられ力量があがっているように感じます。
 - ・児童が時間や大人の言葉にあまり縛られないで行動ができ、仲間と協力してリーダーシップとはなにかを考えながら過ごせること。
 - ・ルールや活動方法、時間活動の順序などきめられたことの中ではなく、自分たちで気づき、考え、実行するということを中心に行なわれたことが良かった。



(2) 教員対象の研修会

開催日：令和6年1月26日（金）13時～16時

形 式：オンライン（Zoomを使用）

※日赤支部職員の一部が能登半島地震災害に対応するため、分科会4は中止とさせていただきました。

参加者：105名

内 容：①講演「学校教育と青少年赤十字」山口県教育庁 義務教育課 指導主事 植杉 公哉

②講義「国際人道法 子どもたちに世界の紛争をどう伝えるか」 日赤本社広報室 主査 齊藤 彰彦

③紹介「大阪・関西万博の赤十字パビリオン」（兼 国際人道研究センター研究員）

④校種別分科会

分科会1-[幼・保] ●他県の防災講習事例

●幼児安全法講習

分科会2-[小・中] ●青少年赤十字の実践と特活

●授業で使える防災講習の紹介と体験

分科会3-[高校] ●年間行事と高校協議会

●指導者間の情報共有と意見交換

4 青少年赤十字の行動目標と特別活動② 令和6年1月26日 青少年赤十字研究会
文部科学省初等中等教育局人道部研究室 講演資料より

25

子供たちの自己指導能力を育む

自己指導能力とは、意思決定と実践との積み重ねにより育成される能力

学級活動（2）（3）

学級活動（2）（3）の授業では、自己的生活上の課題を見つめ、自己の成長のために、自分に合った具体的な解決方法や目標を意思決定し、自発的、主体的に実行することができるよう自己指導能力を育んでいます。



「学校教育と青少年赤十字」 県指導主事 植杉公哉先生

具体的な指導は？・・・何を問う？

気づく
人道の敵（利己心、無関心、想像力の欠如、認識不足）に心して生活しているか。

考える
その場面、場面でのベストの解決策を探ろうと努力しているか。

実行する
生活の仲に行動が定着しているか。



「青少年赤十字の実践と特活」 青少年赤十字賛助奉仕団 田中邦明先生

パレスチナ赤新月社の活動



国際赤十字社では、子どもたちのこころのケアを実践するスタッフ
JRC

パレスチナ赤新月社本部 (JRC)

全体会 国際人道法

キケンな場所を探しましょう

①一部屋の平面図を描きましょう。
寝室、リビング、ダイニング、キッチン、子ども部屋

②地震のとき、キケンな場所にXを書きましょう。

キケンな場所

転倒してキケン 落下してキケン
割れてキケン 飛んで壊れてキケン

小・中分科会 防災

赤十字幼児安全法

乳幼児の一次救命処置
～市民用～



幼・保分科会 幼児安全法

[参加教員の感想]

- 特別活動とJRCの関わりが参考になりました。JRCの態度目標を意識して取り組むことの効果が大きいと思いました。
- 学校教育と青少年赤十字の取り組みにより、役割意識が向上し、自己認識が深まり、楽しさと豊かさを築く力を身につけることがわかりました。
- 生徒会活動についても生徒自治を促す活動を行うようとしているので、今後もリーダー性を育てる機会の提供を続けていきたい。
- 日赤の活動が、学校教育活動にも直結しており、学級経営や学校経営などにも活用できることから、全てのものがつながっていることを改めて感じました。
- ご紹介いただいた資料は小学生にも非常にわかりやすい内容で、自校の教職員にも復伝していきたい。
- 自分が社会科の教員であるので、授業において扱う機会が多いです。紹介していただいた動画は、早速活用します。多くの高校生が国際人道法の重要性を理解していくとよいと考えます。
- 国際人道法については知ってはいましたが、改めて考える機会となりました。起こった後のことを想像できる人だけが眞の対処ができるという言葉には、感銘を受けました。
- 防災については、どのようにカリキュラム化していくか悩んでいたので、防災教育プログラムは、大変参考になった。
- 様々な防災教育の教材を具体的に知ることが出来て、参考になった。
- 動画やたくさんの資料のおかげで、大変わかりやすい研修となりました。
- テーマが様々でとてもよい研修でした。



参加されなかった方も、研修会の資料は、当支部ホームページからダウンロードできます。パスワードをお伝えしますので、日赤県支部へお問合せください。

(3) 中学・高校生メンバー対象のオンラインセミナー

コロナ禍により活動が思うようにできないとの意見を受けて昨年始めたこのセミナーは、今年度は中学生も対象を拡げました。1学期はJRCメンバーが企画・進行し、主体的にグループワーク、意見交換などを行い、延べ417名が参加しました。

開催月	内 容	講 師	参加人 数
4月	JRC部員を増やすための座談会！	下関南高等学校JRCメンバー	69名
5月	SDG sを本気で話し合う！	華陵高等学校JRCメンバー	72名
6月	JRC全国研修会参加報告	長府高等学校JRCメンバー	52名
7月	ネットいじめ、ネット詐欺を知ろう	県警察本部 生活安全少年課	40名
9月	JRC県トレセン参加報告	豊浦高校、山口高校JRCメンバー	21名
10月	国際理解 アフリカのルワンダを知ろう！	日本ルワンダ学生会議（東北大学生）	30名
11月	アフリカルワンダの気候変動と人々への影響	日赤在ルワンダ首席代表	84名
11月	日本と世界の気候変動	県立大学教授	49名



2 日赤本社主催の全国行事

(1) 国際交流事業 JRC/RCY International Meeting

[前半] タイの赤十字メンバーを山口県に受け入れ、JRCを体験

日にち 11月18日（土）～22日（水）



JECメンバーと学生奉仕団が
歓迎会を催しました！



制服を着て華陵高校に3日間登校



東陽小では英語の授業と給食を体験



ホームステイ4泊5日

[後半] 県代表のJRCメンバーと海外の高校生赤十字メンバーが東京の国際交流集会に参加

日にち 11月23日（祝）～26日（日）3泊4日

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加 日本のJRCメンバー39名、海外の赤十字・赤新月社の高校生メンバー26名

内容 フィールドワーク、三井グループによるサステナビリティ学習、文化交流

各国の赤十字活動紹介、グループディスカッション、フェアウェルパーティ



国際交流集会の様子



(2) スタディー・センター

例年、山中湖村東照館において高校JRCメンバーを対象に4泊5日で実施するこの行事は、コロナ禍はオンラインでしたが、今年度は、4年ぶりに従来の形式で3月の春休みに開催されます。リーダー養成を目的に、47都道府県からの代表メンバーが集まり、フィールドワークやグループワークなどを通じて、主体性や協調性、助け合いなどを学びます。当県からは、トレセンで選ばれた豊浦高校生と山口高校生各1名が代表で参加します。

3 賛助奉仕団の紹介

JRCの普及や、加盟促進、活動支援を目的に、教員OBで構成する「山口県青少年赤十字賛助奉仕団」という赤十字ボランティアグループがあります。38名の団員が所属し、幅広くJRCを支援する活動をしています。派遣を希望される場合は、日赤県支部までご連絡ください。

わたしたちは、

- ✓ 元JRC指導者です
- ✓ 元トレセン指導者です
- ✓ 国語、数学、理科、社会、商業、美術、音楽の教員です。

こんな活動をしています（多忙な先生方を支援します）

- ✓ JRC加盟登録式において、赤十字やJRCに関する講話
- ✓ 新型コロナウイルス感染症に係る人権講演
- ✓ 高校JRC部での出前講座
- ✓ 加盟促進のための学校や校長会の訪問
- ✓ その他、私たちの特技を生かした支援をします！



私たちの得意分野を活かします！

【団員募集中！】現役教員および、退職者の新規入団をお待ちしています。年会費1,000円。総会年1回。無理なく続けることができるよう、団員同士サポートします。未来をつなぐJRCメンバーの育成に、どうぞ力を貸してください。



4 広報協力のお願い



青少年赤十字を含む県支部全ての事業は、県民の皆様からの善意の寄付金を財源に行っています。よって事業を継続するためには、寄付に協力される県民の理解が欠かせません。各校でのJRC活動を、広く地域住民に周知してくださいますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

【協力方法例】

- ・赤十字活動中は、可能な範囲でJRC旗やJRCバッジを活用
- ・学校が作成するホームページや学校だよりなどに、JRC活動を報告
- ・日赤が活用できる写真があれば、写真データを提供ください。

5 日赤県支部JRC担当者から

JRCは学校の役に立つ活動を行いたいと考えています。

- ✓ こんな防災講習があつたらいいな
- ✓ こんな出前授業をして欲しい！（健康・安全、奉仕、国際理解・親善）
- ✓ 地域のJRC加盟園・校同士で繋がりを持ちたい
- ✓ 赤十字ボランティア（婦人会、防災、アマチュア無線）と交流したい

コロナ前と比べて、指導員・講師派遣依頼が減っています。JRCを活用ください。

- ✓ 救急法講習（心肺蘇生法、災害時を想定した傷の手当など）
- ✓ 防災講習（炊き出し、ロープワーク、ワークショップなど）



講習後の高校生の感想

「自分にできることが一つ増えた！」
「自分が人の役に立つことができる」



ご意見やご要望を、
いつでも日赤県支部へお寄せください。



緊急特集！
国際理解・親善

東アフリカのルワンダ

赤十字社は、191か国にある世界最大の人道支援組織です。各国の赤十字社が協力し、パレスチナやウクライナなどへ医療支援を、アフリカなどでは開発協力等に従事しています。日赤はルワンダに職員1名を駐在させ、ルワンダ赤十字社と共に給水事業や保健衛生、生計支援などを行っています。

2024（令和6）年2月、山口県支部からこの事業地に職員を派遣し、10日間かけて現地の様子を見てきました！今後はこの経験を活かしていきますので、出前授業や講演の依頼をお待ちしています。



村で出会った女の子
フローレンス ちゃん 4歳

- ・1日3回、一人で水くみに
- ・片道20分
- ・お兄さんは小学校へ
- ・裸足で暮らしている
- ・1日1食しか食べられない



一般的な家



学校に行けない子どもたち



家畜（豚）の提供を受けた家庭



農作業を手伝う子ども



「助け合い」を広める町内会



包帯法を学ぶ赤十字クラブの生徒

共和国に行ってきました！！

ルワンダ赤十字社には、現在、ベルギー赤、オーストリア赤、スペイン赤も支援に入っていて、各々の担当する村で日赤同様の事業を行っています。日赤が支援するのは、隣国ブルンジとの国境沿いにあるギサガラ郡 5つの村、900世帯です。野菜の種を全家庭に配布し家庭菜園を推進。貧困世帯から順に家畜提供もしています。他にも、各家庭のトイレ、水道施設も建設中です。町内会で助け合いの活動を広げるための組織運営アドバイス、赤十字ボランティアは保健衛生や、学校に行かない子どもがいる家庭の訪問など、様々な活動を行っています。

ある家庭のお母さん クロディーン さん

- ・毎日、自分か子どもが水くみ
- ・片道30分（子どもの場合）
- ・行けない日は、近所の人に
お金を払ってお願ひする
- ・1日1食しか食べられない
- ・家の近くに水場が出来たら…
1日2食作れるかも！と期待



学校のトイレ



学校の様子



小学校の給食（イモをつぶしたもの）

写真や映像を使って、現地の様子や困っている人々のことを伝えます。要望に応じて
グループワークを取り入れることも可能です。

子どもたちが、ルワンダの生活を知り、何に気づき、考えるのか楽しみです。

世界は広くて楽しい！
もっとJRC活動に
国際親善を！（藤井）

出前授業や講演の依頼をお待ちしています

お問合せ・ご依頼は、日赤県支部 事業推進課 まで

電話：083-922-0102 メール：info@yamaguchi.jrc.or.jp





このプロジェクトは、日赤の災害救護や救急法等の講習、青少年赤十字などの知見を活かした複数のプログラムを、赤十字ボランティアや日赤職員などが指導者となり、半日から一日をかけて実施するものです。テーマごとに複数の会場を設置しますので、参加者は、一日に様々な防災講習を受講することができます。令和5年度は山口市内の小・中学校を対象に実施しました。今後、19市町全てで実施するよう計画中です。

山口市立小郡小学校

日時 10月6日（金）1～4時間目
 場所 山口市立小郡小学校
 対象 小郡小4年生児童 3クラス 75名
 内容 ・東日本大震災講話 ・JRC講話
 ・大雨防災ワークショップ ・避難所体験

■特徴

小郡小では、防災学習の心構えを大切に考え、JRC講話を選択。赤十字の理念や活動から、「命の大切さ」「助け合い」を学びました。東日本大震災救護員の講話には、保護者も招きランチルームで実施。大雨防災ワークショップは教室で避難行動について計画を立てました。体育館では、地域の婦人会や外国人を避難者役に、「避難所生活で困ること」などを聞き取り、年齢や国籍によって困ること、支援が必要なことなどを自らが聞き取り、自分に何ができるかを考えました。



映像もぜひご覧ください！

山口市立白石中学校

日時 12月1日（金）5時間目・6時間目
 場所 山口市立白石中学校
 対象 3年生 65名 ※1クラス学級閉鎖のため2クラスで実施
 内容 ・JRC講話 ・災害への備え
 ・家具安全対策ゲーム ・災害クロスロードゲーム

■特徴

白石中は、JRC講話、グループワーク、ゲームなどを選択されました。映像から災害の恐ろしさを知り、具体的な避難方法を習得。家具安全対策ゲームでは、大地震時に、避難経路確保のため自宅の家具をどのように配置するかシートに記入するワークを行いました。クロスロードゲームでは、答えのない課題についてグループで討論。大人の指示がなくても避難するか？などの問い合わせに対して、活発に意見交換しました。最後のアンケートでは、「災害について不安がある86%」「今日の講習受講でその不安の解消となった66%」の回答がありました。



日赤は、防災授業に役立つ様々な映像を制作しています。自由に活用ください！

おうちの中のモンスター	不安が見えなくなるメガネ	赤十字防災セミナー
あいつが来ると暴れだす！ その正体は！？	「正常性バイアス」と 「同調性バイアス」を知ろう	災害から大切なのちを守るために知っておくこと

日赤の防災教材
「まもるいのちひろめるばうさい」



活用方法を映像で
カンタンに！
全国の授業の様子を
7分で紹介

